

第8回東アジア島嶼海洋文化フォーラム

——島と海の変化と混沌——

日 程：2021年12月11日（土） 会 場：オンライン開催

主 催：韓国木浦大学校島嶼文化研究院

発表者：加藤里織（特別研究員）

参加者：昆政明 後田多敦 泉水英計 越智信也ほか

第8回東アジア島嶼海洋文化フォーラムに参加して

加藤 里織

2021年12月11日（土）、第8回東アジア島嶼海洋文化フォーラムが3年ぶりに開催された。この東アジア島嶼海洋文化フォーラムは、2013年に発足して以降、毎年開催され、韓国・中国・台湾そして日本の島嶼研究を行なう研究機関が参集し、東アジアの島嶼域における諸問題解決を目的に、議論や討論、意見交換を行なってきた。

しかし、2019年11月に第7回が開催された翌年から、新型コロナウイルス感染症の世界的感染拡大により、2020年、2021年は開催が見送られた。2021年は、未だコロナ禍にあり、不安が払拭されていない状況であったが、オンラインを用いて非対面で開催された。

フォーラムのテーマは *Changes and Chaos in Island and Seascapes*（島と海の変化と混沌）であり、その中に“1, Changes in marine culture and islandness” “2, Coexistence of nature and humans” “3, Islands and communities on the border” “4, Sustainable tourisms and contents” と、4つのセッ

ションが設けられ、17人（組）による報告があった。筆者は3つ目のセッションで「〈境界〉の島——奄美において境界変動は何をもたらしたのか——」として、奄美に存在する様々な〈境界〉と、それが何をもたらしているのかを報告した。報告は日本語で行なったが、当日は同時通訳があり、英語・韓国語・中国語に翻訳された。

同時通訳については、事前に英語と日本語両方の原稿提出が求められ、通訳担当者と



写真1 韓国木浦大学校島嶼文化研究院のフォーラム事務局関係者
（写真提供：Sun-Keel HONG 先生）

詳細な打合せができた。フォーラム前日には、通信設備などを確認するミーティングが行なわれ、少しの時間だったが他参加者との顔合わせもできた。このように開催1カ月前から当日までの間は、準備のためのスケジュールが細かく設定され、不明点を質問する機会が都度用意されていた。運営事務局により全てが周到に準備、手配されていたおかげで、当日の進行は非常にスムーズだった。ただ、報告時間が短くどの報告者も少し駆け足になっていたのも、もう少し時間が欲しいと思った。またオンラインではオフィシャルではない話し合いができず、他参加者との交流の場がないのは残念だった。

しかし、韓国・中国・台湾・日本だけでなく、インドネシアやヴェトナムからも報告があり、非常に有意義なフォーラムだったと思う。

最後に主催者からフォーラムの最終的な目的は「平和と共存」であるという話があった。近年、東アジアを取り巻く環境は大きく変化している。加えて、新型コロナウイルス感染拡大という危機的状況も重なり、非常に困難な事態になっている。そのようななか、このフォーラムが担う役割はますます重要になるだろう。今後このフォーラムが、東アジアの関係諸国間の平和と友好そして共存へつながる架け橋となることを期待している。

最後に、フォーラムを主催した韓国・木浦大学校島嶼文化研究院の関係者の皆様に感謝の意を表したい。特にJae-Eun KIM先生、Sun-Kee HONG先生、そして同時通訳という非常に難しい役目を担ってくださったJooYeon Yim氏にも、心より感謝を申し上げる。また、本フォーラムでの発表の機会をくださった後田多敦先生、泉水英計先生、越智信也先生、事務局の増原千佳氏、木村美江氏にも厚くお礼を申し上げる。



写真2 フォーラム会場（写真提供：Sun-Kee HONG 先生）



写真3 加藤報告（スライド）